



発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町 3-6
☎ 0959 (72) 3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

コロナ禍に思う

主任司祭 中村

満

コロナウイルス感染症予防のためのワクチン接種がやっと日本でも始まった。コロナの終息を誰もが願っているが、急速には治まりそうもない。世界に目を向けると、ウイルス感染者は一億人を超え、死者も二千四十万人余に達している。一年前には誰も予想できなかった未曾有の状況と言える。コロナによって一変した世界と日常が一日も早く本来の状態に戻るよう祈るばかりだ。

コロナウイルスがもたらした惨状は想像するに難くないが、身近な事として振り返ると、

分離、分断、断絶など関係、関わり、絆を壊してしまうことにこのウイルスの脅威があると思う。感染防止のため三密（密閉、密集、密接）を避けるようにと呼びかけられ、不要不急の外出自粛が求められ、全く集うことが出来なくなった。しかも、感染者は隔離され、面会謝絶となり、社会から分離される。死に際しても家族とも分断され、最後を看取れず、遺骨として戻って来る。血縁さえも断絶された状況。教会の通夜、葬儀も身内だけで行わねばならず、教会共同体としての本来の姿が失われつつある。会食も自粛を余儀なくされ親しい人との集いも行えなくなった。人と人との繋がり、絆も傷つけられ、人間の本来の姿である共にあることさえできなくなったと言える。

こんな状況の中、思い浮かぶことの一つは、キリストが語った「ぶどうの木」の例えである。「わたしに留まりなさい。そうすれば、わたしもあなたたちに留まる。ぶどうの枝が木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことはできない。同じように、あなたたちもわたしに留まらなければ、実を結ぶことはできない。わたしはぶどうの木で、あなた方は枝である。人がわたしに留まり、わたしもその人に留まるならば、その人は多くの実を結ぶ。わたしを離れては、あなたたちは何もすることができない。」（ヨハ十五・四〜五）ここで「留まる」と訳されているギリシャ語は、文脈によって「つながる」とも訳すことができ、キリストに「留まる」、「つながる」ことの大切さと素晴らしさを伝えている。キリストの愛に留まり、つながる時、その愛を受けて愛の実をむすぶことができ、その愛に留まらず、つながらない時、愛の実を結ぶことはできない。

三月は教会の伝統で聖ヨセフにさげられる月です。わたしが三月に生まれて、両親は自分の誕生日と一番近い聖人のお祝い日を選んでヨセフという霊名をわたしに付けました。おそらく単純に誕生日が近いからではなく、ヨセフ聖人に倣って生涯を生きてほしかったのでしょう。そして教皇フランシスコは、コロナ事態や世界に直面している問題を読み取り、二〇二〇年十二月八日から二〇二一年十二月八日まで「ヨセフ年」と宣言し、使徒的書簡「パトリ・ス・コルデ」を発表しました。ヨセフ聖人の霊性に倣って、世界的危機と言われる今日を、ヨセフ聖人の取次ぎを願いながら、乗り越えて行くこうという教皇様の考えが「パトリ・ス・コルデ」に表れています。

ヨセフ聖人は、マリア様の夫、イエス様の法的父と知られ、イエス様やマリア様の次のように考えられがちですが、救いの歴史においてヨセフ聖人がいなかったら、イエス様がこの世に来ることも、今の教会もなかったはずですが、でも、ヨセフ聖人は自ら幼いイエス様とマリア様のた

聖ヨセフの霊性に倣い

助任司祭 金 ボム



めに、自分が困難な状況に遭われることがあっても、二人を守ってくれたやさしい父でした。また、夢での神様のメッセージに従い、イエス様とマリア様を災難から逃がし、エジプトでの外国生活を余儀なくされた時も、神様に従う従順さで二人を守りました。ヨセフ聖人の従順は、単純に受身的ではなく、苦労や困難が予想されても、自ら勇気をもって神様のメッセージに従った従順で、教皇様はこれを「創造的勇氣」と言います。ヨセフ聖人は労働者として生涯大工の仕事という働きを通して聖家族を養い、イエス様を育てました。「イエス様を見守り、擁護し、その歩みに従うまでイエス様から決して離れない」(「パトリス・コルデ」24項)ヨセフ聖人の姿を、教皇様は、「父の影」という本を引用して「影にいる父」と言います。

ヨセフ聖人の信仰、聖家族を守り、養ったように、イエス様が建てた教会の構成員一人一人、見知らぬ人、病人、外国人、疎外されている人を守り、養ってくださったヨセフ聖人の父性、自己犠牲としてイエス様とマリア様を受け入れ、守ったのではなく、自ら生涯を捧げものとして二人を守ったヨセフ聖人の意志は、現在を生きているわたしたちが学ぶべき姿です。コロナの問題で苦しんでいる今、ヨセフ聖人の信仰に倣い、またヨセフ聖人の取次ぎを願いながら、直面している問題を乗り越えて行きましょう。

助任司祭 稲田祐馬

いのちの泉である典礼

(注1)「パトリス・コルデ」はまだ正式的に通訳されていないため、教皇フランシスコの言葉「マリア論オンライン講座(amepaownd.com)」というサイトからの試訳を引用しました。

聖歌を歌わないこと、先唱者のみが応答することなど対応がなされていて、それがずっと続いていきます。コロナ禍以前までは、正直申し上げますと、たまに聖歌が省かれると御ミサが短くなっているか、共同で唱える教会の祈りも短くなっているかと思えることも度々でしたが、これも現在の状況が続くと、従来の典礼の豊かさに気づかされ、恋しくなってきました。よく歌う人は倍祈ることになる、と聖アウグスティヌスは言います。典礼の中にイエス様がいらっしゃることは変わらないのに、物足りなさを感じるというのには歌わなくなったからかもしれません。教会で再びみんなで歌い祈れる時が来たら、私たちはその時「復活」をより味わえるのでしょうか。

昨年、典礼の頂点とも言われる聖なる逾越の三日間の御ミサが非公開ミサとなりました。その後の復活祭の御ミサも同様でした。再びみんなが集まった時には復活節はすでに始まっていて、なんとなくぽっかり穴が空いたような感じになりました。



私たちはこうして、感染対策を余儀なくされながら、いろんなことに気づきます。典礼の大事さもその一つです。

神様は秘跡の中だけにいらっしゃるのではなく、もちろんこの世界の中で自由に働かれます。でもだからと言って秘跡を軽んじると、パパ様の言うようにキリスト不在のキリスト教になってしまうのでしょうか。

うろ覚えですが、昔聞いた例え話にこんなものがあります。信仰熱心なある人が、イエス様に捧げものをお願いします。自らの持つあらゆる良いものをお献げして、そしてもうお献げするものがなくなってしまうしました。「私はもう献げるものがありません。」そう祈るとイエス様は「あなたはいろんなよいものを献げてくれた。しかし大事な献げものが一つ残っている。」と。もう献げるものが思いつかないその人にイエス様はおっしゃいます。「私はあなたの弱さをこそ献げてほしいのだ」と。

私たちは御ミサの中で、自らを捧げてくださるイエス様と一緒に、私たちの日々の労苦や悩みや弱さを祭壇にのせてお献げします。しるしを通した神様との交わりの中で私たちは、「私は弱い時にこそ強い(2コリ12:10)」というパウロの言葉を実感するのです。

私達はこうして、感染対策を余儀なくされながら、いろんなことに気づきます。典礼の大事さもその一つです。

神様は秘跡の中だけにいらっしゃるのではなく、もちろんこの世界の中で自由に働かれます。でもだからと言って秘跡を軽んじると、パパ様の言うようにキリスト不在のキリスト教になってしまうのでしょうか。

うろ覚えですが、昔聞いた例え話にこんなものがあります。信仰熱心なある人が、イエス様に捧げものをお願いします。自らの持つあらゆる良いものをお献げして、そしてもうお献げするものがなくなってしまうしました。「私はもう献げるものがありません。」そう祈るとイエス様は「あなたはいろんなよいものを献げてくれた。しかし大事な献げものが一つ残っている。」と。もう献げるものが思いつかないその人にイエス様はおっしゃいます。「私はあなたの弱さをこそ献げてほしいのだ」と。

私たちは御ミサの中で、自らを捧げてくださるイエス様と一緒に、私たちの日々の労苦や悩みや弱さを祭壇にのせてお献げします。しるしを通した神様との交わりの中で私たちは、「私は弱い時にこそ強い(2コリ12:10)」というパウロの言葉を実感するのです。

合同堅信式 2021

今年の堅信式は、県内のコロナウイルス流行の影響を受け、予定より約一か月遅れの二月十四日（日）午前十一時に福江・浜脇・井持浦の三教会の受堅者のみ参加にて行われた。高見大司教様の委任を受けた中村主任神父様の司式で行われ、参加者は受堅者と家族など関係者のみに制限された。

中村神父様は説教の中で、「堅信の秘跡の素晴らしさとは神様、聖霊（神の愛そのもの）が来てくださる事を意味する。人間の持つ愛には限りがある（裏切り、絶望などが、神の愛は尽きる事なく永遠である。」「イエス様は最後の晩餐で聖霊（限界のない愛）を弟子たちの元に送るよう父に祈りました。今日皆さんのもとに聖霊の形で尽きる事のない愛が注がれます。そしてキリストの愛を受けた皆さんが、宣教師としてより多くの人に神の愛を伝える役割を担うよう願っています



す。」と述べられた。

八名の受堅者は、緊張の中洗礼の約束の更新を行い、その後司祭の按手によって送られた聖霊を受けた。それから受験者は額に塗油を受けた。例年と異なる形で式となったが、堅信の儀を経て、大人の信徒への一歩を踏み出した受堅者たちにとっては、コロナ禍とともに記憶に残る一日となったことだろう。

【合同堅信式 受堅者】

福江小教区 中学生 4 名・大人 2 名

- マテオ 中尾 誠一
 - ヨゼフ 中田 義人
 - ヨゼフ 西津 陽向
 - マリヤ 金子 瑠倫
 - マリヤ 大川 彩美
 - ミカエラ 本山 晶子
- 浜脇小教区 大人 1 名
 マリア 木村 夏美
- 井持浦小教区 中学生 1 名
 テレジア 出口 子母心



中学生黙想会

二月二三日（祝）中学生黙想会が信徒会館にて行われた。感染予防の観点から福江教会の信徒のみで行い、内容もメディア学習の形式で「天国は本当にある」というアメリカの映画を鑑賞し、感想文を書いた。映画は、ある牧師の息子が四歳のコルトンが急病で生死の境を彷徨い奇跡の生還後、「天国にいつてきた」とその様子を話し始める：という内容。



◇映画の感想文を一部を紹介◇

「天国は本当にあるのか」

真鳥 陽菜子
 私はこの物語の中で、天国について少し考えが変わりました。

小さい時から頭にあった天国の存在。だから、あまり深く考えたことがありませんでした。でも、この物語では「身近に天国を感じる」と述べられていて、私も共感したことがいくつもありました。例えば、親からの愛情。これも立派な神様からのおくりものだと私は思いません。

私はこの物語を見て、天国はひとりひとりの心の中にあるのではないかと思います。だから、身近な神様からのおくりものに感謝して、天国についてさらに深く考えたいと思いました。

「映画を見ての感想」

中尾 誠一
 僕は、天国があるのか考えたことはなかったが、今日の映画を見て最初はないのではないかと考えたけど、その後のストーリーで子供のコルトンの体験からとてもコルトンの言っていることが具体的に天国はあると感じた。

そして人の考えを自分の考えと比べるのではなくちゃんと自分の考えを持つことが大切なのだと感じた。なのでこれからは、自分の考えを持ち人に伝えることができるようになればいいなと思っ

浜口司教様を偲んで



大分教区の浜口末男司教様が昨年十二月二八日に逝去されました。七十二歳でした。司教様は、平成十四年四月から平成十七年四月までの三年間、主任司祭として福江教会で司牧をされました。当時の写真や「こころ」の記事などで振り返ると、司牧、宣教だけでなく剣道塾、聖歌隊、ソフトボールクラブの開設など、いろいろな世代の信徒との交流を大切に考えておられた事が伺われました。また、「こころ」に寄せられた記事を見ても、典礼暦年の各節目毎に分かりやすい言葉を用いて説明されていたりと、読み手への気遣いが感じられる文章が印象的でした。



敬老会にて



ソフトボールの試合にて

当時を良く知る信徒の方々に、浜口神父様の事を尋ねたところ、「ジャージにサンダル履きで、飾らない、気さくな神父様だった。」「長崎にもサンダル履きで出かけていた。」「剣道着姿が思い出されます。子供たちも練習に参加していた記憶があります。」など教えていただきました。

最後に、水主町の峯重昭さんより頂いた追悼のメッセージを紹介いたします。

* * * * *

浜口司教様の訃報に接し、今もまだ信じられない気持ちです。個人的には、母の喪中のハガキを出したばかりで、「えっ、司教様も」と驚くばかりです。司教様が福江教会の主任の頃に、今は亡き吉原貞之監督と結成したソフトボールチーム「エクレシア」の四十名分近いユニホームの購入など、ポケットマネーによって大いに助けられたと聞いています。又、大分に転任される際に

典礼奉仕者 募集中!!

典礼委員会では、典礼奉仕をして下さる方を募集しています。

近年、福江教会でも信徒数の減少と高齢化などにより、その担い手が減少してきています。

「典礼奉仕者」と聞くと、難しく考えてしまうかも知れませんが、そんなことはありません。ミサ典礼の進行を「お手伝いする」という役割と考えてよいかと思えます。何よりも典礼奉仕に参加すれば、ミサをより深く知り、充実したものになります。



司祭団マラソンでゴールの瞬間!

も、チームに多額の寄付を残してくださいました。

かつてソフトボールの練習に顔をだし、一緒にプレーした姿。浜口司教様の飾らない、威張らない、人柄が偲ばれます。

ご冥福をお祈りいたします。

峯重昭

す。多数の方のお手伝いをお願いします！

詳しい手順などは、典礼委員が丁寧に説明しますから何も心配はありません。以前典礼奉仕をしていた方で、久しぶりにやってみたいという方ももちろん大歓迎です。興味のある方は、典礼委員会の川尻が濱崎、または神父様やシスターの方に気軽にお声掛けください。よろしくお祈りします！

編集後記

昨年十二月から今年一月にかけて親戚に不幸が続き、葬儀に参列する機会が何度かありました。その際、教会でよく会う方と席したので故人との関係を尋ねると、実は遠いけれど親戚であると分かりました。その時、急にその方に対し親近感が湧いたのと同時に、自分が知らないだけでルーツを辿ると近しい関係の人がまだまだいるのだらうなと感じました。という事は、普段教会で会う人は、みな近い関係と違っていいのではありません。共同意識を持って互いに声を掛け合って、支え合い、助け合って信仰生活を送りたいと思います。まず自分から！

(N・H)